



心不全について②

第二回 心不全の検査、診断と治療について

日本の循環器疾患の死亡数はがんについて第2位です。その約40%は「心不全」によるものとされています。今後さらなる高齢化社会を迎えようとしている中、心不全による入院数や死亡率は増加の一途をたどっています。そんな怖い病気「心不全」について、総合大雄会病院の寺沢彰浩医師が解説します。

●心不全の検査、診断は どのようなようになりますか？

患者さんのお話を聞いて身体診察を行い、次の検査をいくつか組み合わせで行います。心不全の有無、心不全の病状や程度（重症度）、原因となる心疾患を診断し、最適な治療を検討します。

胸部X線検査 ▼ 心臓の大きさや、肺やその周囲の水分の貯留（肺水腫、胸水）の状態を調べます。

心電図 ▼ 心不全の原因となる心臓病や不整脈を調べます。

血液検査 ▼ 心不全の有無、程度判定で重要となるBNP（脳性ナトリウム利尿ペプチド）の濃度測定をします。

心臓超音波検査 ▼ 心不全の原因となる心臓病の診断や心臓の働きを評価します。

心臓カテーテル検査 ▼ 手首や足の付け根の血管からカテーテルという細い管を心臓に入れて検査します。心臓の働きを直接測定したり、心臓へ血液を送る冠動脈に異常がないか調べます。また、直接心臓の筋肉を少量採取する「心筋生検」を行うことも

あります。得られた心筋の異常を調べ詳細に評価します。

●心不全をどのように 治療するのですか？

①心不全そのものに対する治療

まずは心不全そのものに対する薬物療法を行います。安静にいただき、心臓の負担を軽くし心臓の働きを回復させるよう、心臓を休める薬を用います。患者さんの状態に合わせて、いくつかの薬を調整します。外来通院で行う場合と、症状が重い場合などは入院して治療を行います。

②心不全を発症または悪化させた要因に対する治療

感染症や貧血など、心不全を、発症させた、または悪化させた、要因があれば、合わせて治療します。

③心不全の原因となる心臓病の治療

心不全の原因となる心臓病が確定し治療法がある場合は、その治療を行います。例えば、心筋梗塞や狭心症ならば、詰まった狭くなった冠動脈に対するカテーテル治療

（経皮的冠動脈形成術）や冠動脈バイパス手術が行われます。弁膜症ならば、手術による弁形成術や人工弁置換術が有効です。不整脈であれば、薬物療法のほかにカテーテルによる治療（カテーテルアブレーション）が効果的な場合があります。

心筋症など心臓の筋肉自体が障害された心不全では、薬物療法が中心となります。心臓再同期療法というペースメーカーによる治療が有効な場合があります。改善しない場合には、補助人工心臓や心臓移植が必要となる場合もあります。

一概に心不全と言っても患者さんそれぞれ病状は異なります。かかりつけ医または循環器内科のある医療機関に相談することをお勧めします。



監修

総合大雄会病院 副院長
寺沢 彰浩 医師

（主な資格）

- ・日本内科学会 総合内科専門医
- ・日本循環器学会 循環器専門医

次回は「心不全の予防」
について解説します



未経験
のかたも
歓迎

看護補助者募集中!!

まずはお気軽に病院見学へお越しください

☎ 0586-24-8891（受付時間）平日8:30~17:30